

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4472300625		
法人名	社会福祉法人 愛泉会		
事業所名	グループホーム いずみ		
所在地	大分県由布市庄内町樺木978-1 (電話) 097-582-3399		
評価機関名	特定非営利活動法人 大分福祉サービス評価機構		
所在地	大分県大分市大字下郡1015-5		
訪問調査日	平成20年10月7日	評価確定日	平成20年10月14日

【情報提供票より】(平成20年9月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8 人, 非常勤 人, 常勤換算 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨一部鉄筋 造り		
	1 階建ての ~ 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 8名
要介護1	1	要介護2	1
要介護3	4	要介護4	2
要介護5	1	要支援2	
年齢	平均 85.1歳	最低 78歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮崎医院 小野歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 敷地内に通所リハビリテーション事業所を併設し、運動場や中庭・温泉の湯を利用した足湯が設置されたテラスなど、ゆったりできる環境を整えている。
- 建物の窓の位置が低く設置されており、利用者の目線で戸外の自然が楽しめるようにしている。
- 日常的に地域の人々との交流がなされ、利用者の自由な生活と周囲の見守りが共存している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題、①市町村との連携、②災害対策については、その後の取組みにより改善されている。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 全職員で自己評価の各項目について検討し、前向きに取組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者代表・家族代表・地域代表・行政担当者と職員で構成され、2ヶ月に1回開催されている。前回からの検討事項についての話し合いと、事業所が現在取組んでいることや外部評価などについての報告が行われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用開始時に家族の意見を反映できる体制があることを説明するとともに、家族会や個別的な面談の機会を利用し意見を吸い上げ、サービスに反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 散歩や季節行事などを通じた近隣の地域住民との交流が日々行われている。なじみの関係が構築され、防災や危機回避の点でも緊密な連携が図られている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性強化を謳った理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝え、理解を促すようにしている。また、毎朝の出勤時に玄関ホールに掲示してある理念を読誦するほか、ミーティングや申し送り、関わりの振り返りの時にも、理念に必ず触れ、実践に向けた取組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	盆踊りや花火大会等の地域行事への参加、おせつたいや小学校の運動会などを通じての交流を積極的に行っている。また、小学生や中学生が定期的にボランティアとして活動にきてくれるなど多様な交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月1回の自己評価や半年に1回の法人内の事業評価を通じ、その結果を職員全員で検討している。このプロセスを通じ、サービス評価の意義や目的を全職員が理解し、サービスの質の向上、改善に向けて具体案の検討や実践につなげる取組みが行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催される会議では、現在取り組んでいる事業内容や各種評価結果が報告・検討されるとともに、前回の検討事項や懸案事項が丁寧に話し合われている。毎回、行政・地域住民代表・利用者・家族等が参加し活発な討議となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議等の会議での定期的な意見交換や、実態把握調査や困難事例検討などでの市町村担当者との情報交換を通じ、緊密な連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時には、日常の生活ぶり、心身の状況等を伝えている。又必要に応じ、電話や手紙などで状況を報告連絡するとともに、毎月1回は金銭出納帳を確認してもらっている。利用者によってはなかなか面会に来られない家族もいるため、事業やサービス内容についての理解が薄い事例もみられる。	○	面会が困難な家族には、連絡や報告などの情報提供の方法を工夫して、さらに理解を深めてもらえるような取り組みが期待されます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が意見や不満・苦情を出せるように、利用開始時にそのような体制があることを説明するとともに、家族会ではどんなことでも言ってもらえるような問いかけを行っている。また家族から出された意見等については、都度ミーティングで検討され反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の移動や離職等で職員が代わる場合は、引継ぎを十分に行いスムーズに移行できる様になっている。今年度は職員の異動等はなく、安定した関係が保たれている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業計画に毎年の研修項目を設定し、事業所外で開催される研修会や学習会へ職員が参加できるようにしている。また全職員が研修内容を共有できるように全体会議でも報告を行うとともに、報告書を読覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県レベルや地区ブロックの協議会に加盟し、そこで行われる研修会や学習会への参加を通して連携と交流をはかり、ケアに活かすよう取組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に利用者とその家族に来院してもらい、食事やレクリエーションなどを体験してもらうことで、安心感をもって生活の移行ができるよう取組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のこれまでの家庭での経験や役割が保たれるよう、日々の生活の中での役割づくりや働きかけがさりげなく行われている。料理や片付け・裁縫などを通じ、利用者と職員が共に支えあう関係が構築できるような工夫や配慮がみられる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、言葉や表情などからその意向を推し測ったり、それとなく確認を行っている。意思疎通が困難な人には、家族や関係者から情報を得たうえで職員間で確認し、本人の立場を尊重した意向把握を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の要望を聞いたり、また必要に応じ、家族や関係者にも計画策定に参加してもらっている。アセスメントからモニタリングの各段階で、スタッフ全員で意見交換を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果などを定期的に評価するとともに、利用者の状態変化や状況、家族、本人の要望に応じ、見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望や状況に応じて、通院や送迎等必要な支援には柔軟に対応できる体制を整えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医及びかかりつけ医への定期受診を行うほか、家族と協力し通院介助を行っている。また歯科医については、訪問診療に来てもらうなど複数の医療機関との関係を密に結んでいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や急変、終末等に対する対応指針を定め対応し得る、最大のケアについて説明し、同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	朝、夕のミーティング時等、折りにふれ職員を意識向上を図っている。利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事など基本的な日常生活の流れはあるが、その日その時の本人の体調、気持ち等に配慮した柔軟な対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者との意見交換会などで意向を聞き、メニューに反映させている。また併設事業所の栄養士からの指導も受け栄養面での充実にも配慮している。職員は利用者とともに食事をし、片付け等も一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者ごとにその日の希望を確認したうえで入浴できる体制をとっている。見守りや介助が必要な場合には職員が付き添ったり、仲の良い人同士で、一緒に入れるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	以前の生活の中での楽しみを満たせるような働きかけを行っている。色々な話し合いの可会進行や、掃除・洗濯物整理など一人ひとりの生活層を反映した役割分担や、漬物づくりや花見の散歩などの季節ごとの楽しみや気晴らし行事を、職員と利用者が楽しみながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の状況、本人の気分や希望に応じ、散歩、買物、ドライブ等に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りを徹底し、一人ひとりのその日気分や状態を把握する事で、さりげなく声を掛けたり、一緒について行く等、安全面に配慮。日中は、玄関の鍵はかけず、自由な暮らしを支援している。また、近隣地区の住民も、見守りを協力的に行ってくれており、自由な暮らしの支えになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練、消火器の使い方などの訓練を地域の方と合同で行っている。また地域の消防団と「災害時における応急活動及び防災まちづくりの協力に関する協定書」を交わし、協力関係を築いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好を把握し献立に採り入れているとともに、食事、水分量をチェック表に記録している。また、栄養士のアドバイスをもらい、栄養バランスにも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は安全と採光に配慮しつつ、季節感をさりげなく取り入れている。また、フローアの飾りつけやテーブルの配置等は、利用者と一緒に考えて暮らしの場を整えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には備え付けの家具が用意されているが、利用者の希望や状態に応じて、畳や使い慣れた調度品を設置し、居心地よく過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。